

国際理解の大切さ訴え

鹿嶋・清真学園 元外交官が講演



講演する国連大学理事の佐藤地さん＝鹿嶋市宮中

国連大学理事で元外交官の佐藤地さん(71)の講演会が11日、鹿嶋市宮中の清真学園中高で開かれた。中学3年から高校2年の計約550人を前に、国際理解の

大切さを強調。各国での滞在経験や世界情勢の解説なども交え、広い視野から生徒の疑問に答えた。佐藤さんは1981年外務省入省。アジアや欧米な

どでの勤務を経て、ユネスコ大使やハンガリー大使を務めた。

冒頭、佐藤さんはハンガリー大使時代に聞いたジョークを披露。オスマン帝国に比べ旧ソ連による同国への支配が長続きしなかったことについて、共産化やロシア語を強制した政策を理由に挙げ皮肉る内容で、同国の歴史を学ぶきっかけになったという。

同国が加盟する欧州連合(EU)や北大西洋条約機構(NATO)について触れながら、多国間の枠組みを通じた相手国の役割を知る重要性を指摘した。また、中心都市だけでなく地方を知ることで、その国の全体像を理解できるとした。知らない国を理解するための

工夫として小説や映画、博物館見学などの方法も薦めた。

生徒との質疑応答で外交官を目指した動機を問われた佐藤さんは「今まで知らなかった世界を見たかった」と説明。日本と海外の違いについて語りつつ「互いを知らない」と理解し合えない。自分の意見を過不足なく伝えることが大切」と呼びかけた。

今夏、オーストラリアに短期留学するという同高2年、鈴木しのぶさん(16)は「他国の人と関わるためには自国の文化を理解することも必要と教えてもらった。留学では自然と歴史を感じられるような体験をしたい」と思いを語った。

(村田知宏)